

京丹後市データヘルス計画における成果目標の進捗状況

資料6

事業名	目的	実施内容	実績値 (令和5年度)	実施目標 (アウトプット) (令和6年度)	成果目標 (アウトカム) (令和6年度)	実績値 (令和6年度)	成果(評価)と課題
特定健康診査	生活習慣病の予防・早期発見を目的に、40歳以上75歳未満の被保険者に対し、メタボリックシンドローム症候群に着目した健診を実施する。	効果的な受診勧奨を行い、受診率向上を図る。新規受診者及び継続受診者の増加を図る。	受診率 46.5% ※令和5年度法定報告	案内・申込書の送付100% 健診受診必要性の周知 個別受診勧奨	特定健診受診率 50%	受診率 43.0%(KDB:R7.7.9)	・案内、申込書の送付時に特定健診の受診勧奨チラシを同封し、必要性の周知を強化した。 ・未受診者のデータを分析し、ナッジ理論を取り入れたメッセージによる受診勧奨通知を行い、受診に繋げることができた。
特定保健指導	特定健康診査の結果から、生活習慣病の発症要因となるメタボリックシンドロームの状態を改善するために、生活習慣の改善による生活習慣病の予防効果が多く期待できる方に対して食事や運動に関する保健指導を行う。	対象者に対して、特定保健指導を実施し、健康状態(メタボ)の改善を目指す。また、特定保健指導未利用者への勧奨を行う。	特定保健指導終了者の割合 10.5% 特定保健指導対象者数減少率 11.6% ※令和5年度法定報告	未利用者への勧奨 適切な保健指導の実施 特定保健指導終了者の割合 40%	特定保健指導による保健指導対象者数減少率 25%	・特定保健指導利用率59.35% 初回面接実施者数(292人)/対象者(492人) ・特定保健指導実施率52.05% 終了者(152人)/初回面接実施者数(292人) ・特定保健指導終了者の割合(参考):30.89% ※正式な特定保健指導終了者の割合・特定保健指導対象者減少率は令和6年度法定報告を参考にする	・結果報告会(特定保健指導対象者)来所者全員に初回面接を実施し、特定保健指導利用率が大幅に向上した。一方で、初回面接後の継続支援に繋がらなかった方もあり、いかに継続支援に繋げることができるかが課題である。 ・例年、特定保健指導対象者から結果の郵送を希望されたり、継続支援を断られるケースがあることから、無関心層へのアプローチが今後の課題である。
高血圧・糖尿病の重症化予防事業 【生活習慣病重症化予防対策事業】	特定健康診査の結果において、血圧値または血糖値が要医療判定基準を超えている方へ医療機関への受診勧奨を行うことで、疾病の早期発見・早期治療につなげる。	該当者に「連絡票」を作成し、医療機関の早期受診を促し、生活習慣病の早期発見と治療に結びつける。受診状況の確実な把握に努め、未受診者には継続して指導する。 令和2年度から、糖尿病中断者、令和4年度はハイリスク者にも実施。	・「連絡票」送付者のうち受診した者 42.9% ・中断者11人にアンケートを送付。回答3人。受診確認54.5% ・ハイリスク者は対象者27人中4人個別指導実施。	血圧保健指導率(来所):80% 血糖保健指導率(来所):70%	血圧該当者の医療受診率:50% 血糖該当者の医療受診率:65%	・「連絡票」送付者のうち受診した者 36.0% ・中断者14人にアンケートを送付。回答5人。受診確認35.7% ・ハイリスク者は対象者44人中4人個別指導実施。 ○血圧保健指導率:64.3% ○血糖保健指導率:64.3% ○血圧 医療受診率:33.6% ○血糖 医療受診率:7.1%	・未治療者対策では、いずれも目標値には達しなかった。対象者に確実に保健指導を実施できるよう、アプローチ方法を工夫していく。 ・糖尿病治療中断者・ハイリスク者へのアプローチを行い、受診状況の確認・保健指導を実施した。今後も疾病の重症化を予防していくため、受診勧奨をさらに強化していく。
がん検診事業	死亡原因の第一位を占め、患者一人当たりの医療費も高額となるがんの早期発見、早期治療を目的として、各種がん検診を実施する。	効果的な受診勧奨を行い、受診率向上を図る。 精密検査受診率の向上を図る。	(受診率)(精検受診率) 胃 :15.5% 77.2% 大腸 :40.6% 68.0% 肺 :39.6% 86.8% 子宮頸 :43.9% 96.5% 乳 :49.6% 98.3% ※R7.06.30現在	案内・申込書の送付100% 精密検査受診勧奨100% 検診(精密検査)受診の必要性の周知	検診受診率 胃 :25% 大腸 :50% 肺 :50% 子宮頸 :50% 乳 :50% 精密検査受診率 胃 :82% 大腸 :67% 肺 :88% 子宮頸 :100% 乳 :100%	(受診率)(精検受診率) 胃 :15.1% 88.5% 大腸 :40.2% 81.8% 肺 :38.6% 90.9% 子宮頸 :43.6% 93.7% 乳 :49.1% 100% ※R7.06.30現在	・検診受診率は、全ての項目について昨年度より減少したが他の自治体と比較すると高値を維持している。引き続き、検診会場での感染予防、熱中症対策を図るなど受診しやすい環境を整えたうえで、検診の必要性を周知していく。また、検診項目ごとに対象者を選定し効果的な受診勧奨を実施する。 ・要精密検査者の受診率は子宮頸がん以外の項目について昨年度より向上し目標を達成した。引き続き、電話や個別通知による受診勧奨を実施していく。
後発医薬品利用差額通知事業	ジェネリック医薬品(後発医薬品)の普及率向上により、医療費適正化を図る。	差額通知の実施(年4回)とともに、広報紙等を活用しての啓発に努める。	対象者への通知100% ジェネリック医薬品普及率(数量ベース)59.64% ※年度平均	対象者への通知100%	ジェネリック医薬品普及率(数量ベース)60% ※年度平均	対象者への通知 100% ジェネリック医薬品普及率(数量ベース)82.78%	・ジェネリック医薬品普及率は目標の60%を達成することができた。
歩いてすすめる健康づくり事業	ウォーキングを普及・啓発し運動習慣の定着化を図る。	年2回(春・秋)のウォーキング月間に合わせて、毎日の歩数を記録し提出。参加者全員に参加賞を進呈している。 参加方法はチャレンジカード(紙媒体)とウォーキングアプリ。	【参加人数】 延べ人数 716名 【参加者の1日平均歩数】 男性20～64歳:9,746歩 男性65歳以上:7,847歩 女性20～64歳:6,087歩 女性65歳以上:5,890歩	ウォーキング事業参加者 1,000人 保健指導率(保健指導者数/結果報告会対象者数)80%以上	①事業参加者の1日平均歩数 男性20～64歳:9,000歩 男性65歳以上:7,936歩 女性20～64歳:8,500歩 女性65歳以上:6,476歩 特定健康診査における30分以上の運動習慣者の割合:50%	【参加人数】 延べ人数:625名 (前年度比-91) 【参加者の1日平均歩数】 男性20～64歳:6,852歩 男性65歳以上:7,491歩 女性20～64歳:5,151歩 女性65歳以上:5,882歩	参加人数は前年度と比較すると減少したが、例年より多い人数で経過している。 1日の平均歩数も前年度より減少している。地域柄、歩くことが少なく車中心の生活のかたが多いため、日常生活でもう少し多く歩こうと思える働きかけ・プラス10も本事業とともに啓発していく必要がある。 働き盛り世代や無関心層へのアプローチとして協賛企業との連携や京都府の事業(ウォーキングアプリ)なども活用しながら参加者数の増加を目指していく。